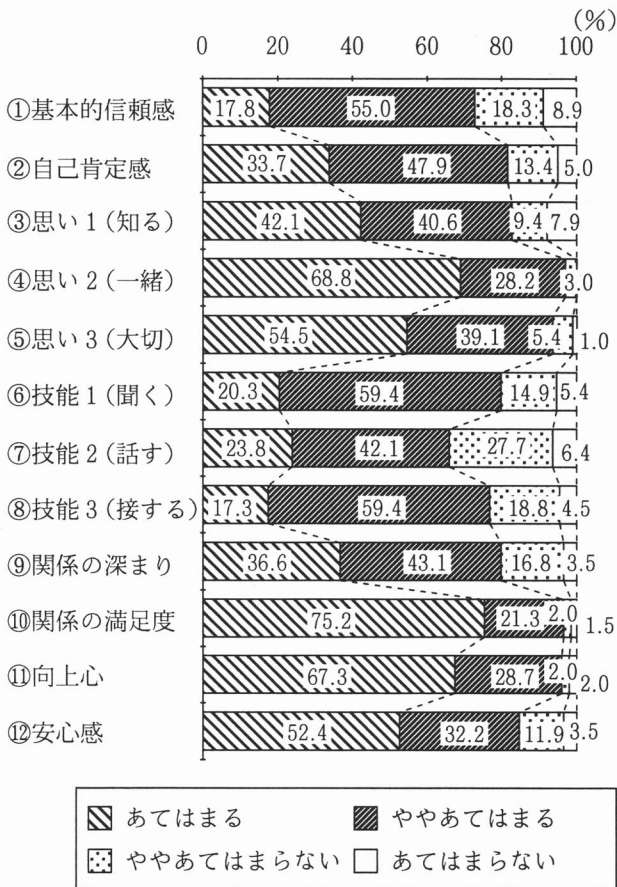


そのまま伝えることができないでいる実態がうかがえる。

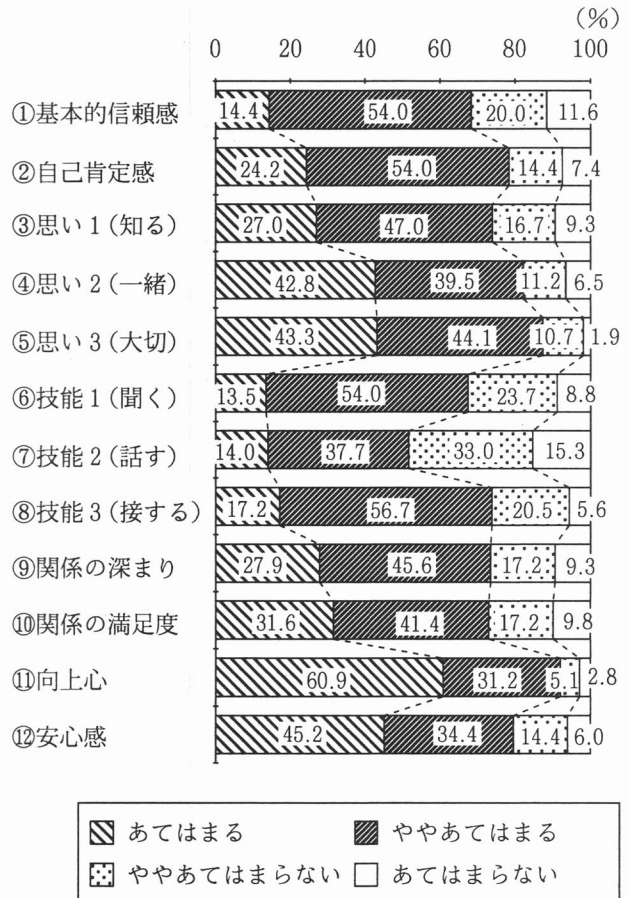
(資料4) アンケートの集計結果 (小学校5年生)



人間関係に満足している」も「あてはまらない」と答えた割合が、やや多い結果となっている。

さらに、「あてはまる」と答えた生徒の割合が低かったのは、①、⑥、⑦、⑧「みんなの立場や気持ちを考えて接する」の項目であり、5年生と同じ傾向である。

(資料5) アンケートの集計結果 (中学校2年生)



《中学校2年生》

(資料5) から、「あてはまる」と答えた割合が50%を越えた項目は、⑪「自分自身をよくしたい」だけであり、「ややあてはまる」まで含めて割合が高かった項目は、⑪の他に④「みんなと一緒に活動したい」、⑤「みんなのことを大切にしたい」であり、3年生、5年生とほぼ同じ傾向を示している。

一方、「あてはまらない」と答えた割合が比較的高かった項目は、①「周りの人たちから大切にされてきた」、⑦「自分の気持ちや考えを話す」であり、⑦については「ややあてはまらない」まで含めると48.3%になっている。また、③「みんなのことを知りたい」、⑥「みんなの気持ちや考えを聞く」、⑨「自分らしさを出して生活する」、⑩「みんなとの

この学年の生徒は、級友にかかわろうという思いはあるが、相手を意識し、相手からの反応を気にするあまり、特定の親しい級友とは比較的気軽に話せるものの、級友全体に対しては本音で話ができずに、表面上の関係で満足し、級友に深くかかわろうとしていない様子が見られる。

これは、級友と深くかかわることの楽しさを実感する経験が少ないことや、自己肯定感が十分に持っていないためと考えられる。